The Garage

PICKUP THE GARAGE

2つのガレージで楽しむ第2の人生。至上のモダン・ガレージハウス。

草野邸 愛知県

大きくラウンドした形状の草野邸は、名古屋市内の閑静な住宅街に建つ。ご主人の趣味カーであるポルシェ2台を収容する第1ガレージと、ご夫婦それぞれのデイリーユースカー2台のための第2ガレージ。それらと住空間がスキップ構造でつながる動線設計が非常に興味深い。

text/Kota-TAKEUCHI(竹内耕太)
photo/Keigo-KIMURA(木村圭吾)
special thanks to セーフティーライフ
phone/052-221-8684
http://www.safety-l.com/

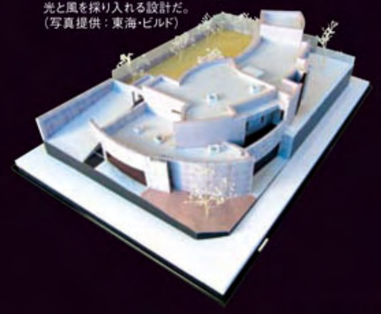
1st Garage

家の北側に位置するのが。2台のポルシェのための趣味のガレージ。左のドアから階段を上がると趣味部屋になっており、ガラス越しに愛車を見下ろし眺めることができる。

家の東側、玄関に隣接しているのは日常の足として使うクルマ2台のためのガレージ。ゲストが来てもスロープにクルマ4台は余裕をもって停められる。

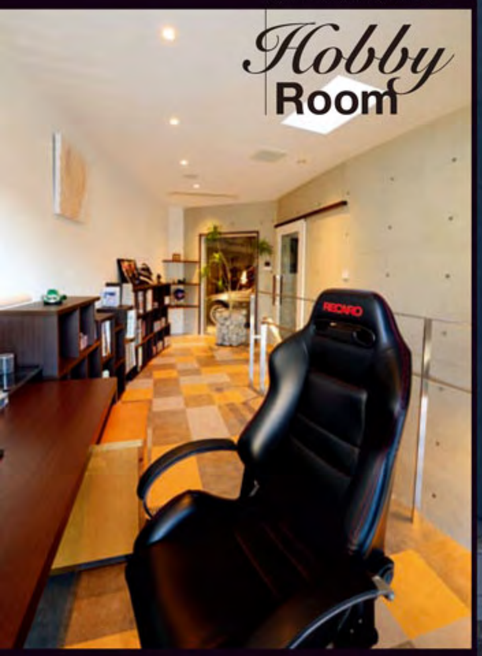
2nd Garage

草野邸の完成模型。中心や半径サイズがそれぞれ異なる円弧壁を組み合わせたユニークな形状で、それらの隙間から屋内に光と風を採り入れる設計だ。（写真提供：東海・ビルド）



2つのガレージの中間に位置する趣味部屋はゆったりラウンドした空間。写真奥が第2ガレージで、手前のレカロシートをカスタムした椅子からは第1ガレージを見下ろせる配置。

Hobby Room



ガレージ奥には収納棚&作業台スペースを造作。ガレージ床にタイルで引かれたラインと、さりげなく色が揃えられているのがポイント。

356B はリアバンパーのオーバーライダー下部からマフラーエンドが突き出た独特の配置。排気システム"EG WAY OUT"のアタッチメントをそれに合わせて製作してもらった。

TheGarage

PICKUP THE GARAGE

新旧ポルシェのための第1ガレージ。旧車のために排気ダクトは必須だった。

ガレージ奥から趣味部屋側を見る。ドアを抜けてスキップ状にやや上がった趣味部屋とガラス越しにつながっている。356B の脇の白い引き戸は階段下収納だ。

手前の1961年式ポルシェ356B ロードスターはこのガレージハウスの完成後に購入。近場をゆったりドライブするのが楽しみとなっている。

1st Garage

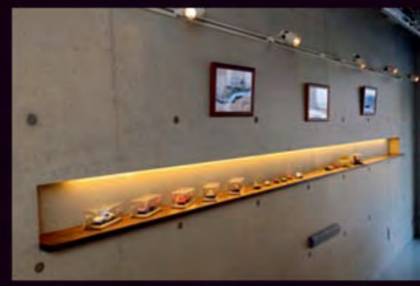
閑静な住宅街で広い敷地をゆったりと使っているこのガレージハウスは、土地の傾斜を利用した地下に相当する部分に2つのガレージと趣味部屋があり、居住スペースは1階のみの平屋になっている。ここに住んでいるオーナーの草野和義さんは今年でちょうど還暦を迎え、今はお仕事をリタイアして悠々自適な暮らしを送っている。

趣味のポルシェが新旧2台入っている第1ガレージは、完全にご主人の趣味の空間だ。「エンジンルームを開けてイジったりはしないですが、クルマを眺めて磨いてというのが一番楽しいような家にしたいと思いました」とのことで、階段を少し上がった趣味部屋からガラス越しにガレージの様子を眺められるようにし、ガレージ内ではスポットライトが愛車を美しく照らし出す。

ガレージの中でも、前からどうしても欲しかったのが排気ダクトだった。奥さまはクルマに興味がないし、生活スペースに排ガスのニオイは入れたくない。しかし、いかんせん半世紀前のポルシェ 356B は出かける前に暖気運転が必要だし、ガレージドアを開け放しておくのも冬には厳しいものがある。

そこで建築中から排気ダクトを調べていたものの、さすがに高価で予算からは手が出なかったのだとか。それでも、建築会社に「将来必ず使うことになるから、穴だけ開けておいて」と頼んでおいたのは、後から思えば幸いだった。家が完成した後にネットで見つけたのが、『セーフティーライフ』のガレージ専用排気ガス排出システム"EG WAY OUT"。100V 電源で使用可能で、マフラー部分用のアタッチメントも356B 用に製作してもらった。強制的にモーターで排ガスを屋外へ排出するのだが、特にRC 造の建物では、後から排気用の穴を開けるのは大変だ。先見の明により、ダクトがスマートに収まることとなった。

左／ガレージ床は土間コンの上に浸透塗膜型保護材で仕上げ。2台のクルマの間にタイルでラインを引き、駐車の目印として、そしてデザイン上のアクセントにもなっている。
右／タイヤ止めは無骨なブロックなどにはしたくないと思っていたため、インターネットで見つけたステンレス製のカーストッパーを採用。



一方の壁にはミニカーコレクションを陳列してライトアップできるニッチ（飾り窓）を設けてもらった。写真右下に写っているのは、ドアを開いた時に傷つかないようにするガード。

2nd Garage

第2ガレージの左は奥さまのベンツCクラス、右はご主人のBMW 523。奥の収納棚の左の窓から見えるのが玄関で、右の窓に見えるのがLDKという構成である。

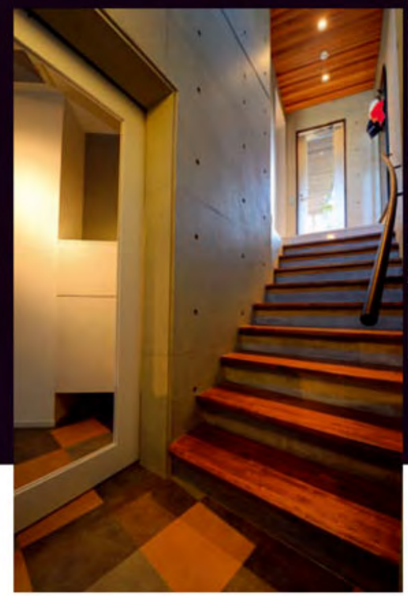
「10年ほど前に、この土地に建っていた中古住宅を購入し引越してきまして、築25年くらいの家でした。やがて家族構成も変わってきたので、夫婦2人でのんびり老後を暮らせるような家を建てたいねと話していたんです」と草野さん。そのため、新たに建てかえる家に余計な部屋を設ける必要はなく、ご夫婦と愛車のためだけの"終(つい)の住み処"をここに建てたいと考えたのだった。

設計を依頼することにしたのは、モデルハウスを見て気に入った『東海・ビルド一級建築士事務所』だ。アイデアを3パターンほど出してもらい、円弧が組み合わさった形状が面白いと現在のプランに決定。基本的な要望としては、夫婦2人のためだけの家として土地を使ってほしいということと、クルマが少なくとも4台入ること。あとは好きなデザインをしてほしいとのリクエストだった。

幾度もの打ち合わせを繰り返して、ご夫婦が心底から納得できる姿になったガレージハウスは、いくつもの円弧を組み合わせたデザインだ。コンクリート打ち放しの外観ながらどことなく有機的で、柔らかく暖かい印象を与えてくれ、また単にデザインだけでなく、円弧壁同士の隙間を活用して屋内に光や風を採り入れるという機能ももっている。

玄関の横にレイアウトされた第2ガレージはご夫婦それぞれのデイリーユース車を収容する。スキップでやや上がった玄関とリビングからもガラス越しに様子をうかがうことができ、さらにトップライトを設けることで採光を確保。朝に昼に、明るい気分で出かけ、戻ってきたいとの要望からである。

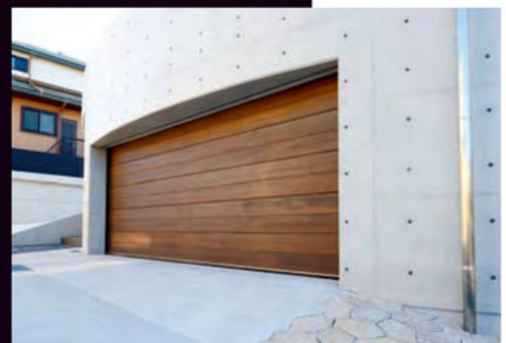
これら2つのガレージと趣味部屋から1階のLDKへとつながる階段は2つの曲面で構成されている。上から下に降りるにつれてやや狭くなっており、実際以上の奥行き感を演出するという工夫である。



第2ガレージは上に何もないため、天井にトップライトを設けてガレージ内に光を採り入れている。買い物に出かける時、ガレージも明るい方が気分も明るくなろうというもの。

第2ガレージと趣味部屋から1階LDKへとつながるラウンドした階段。上がった正面にはバルコニーがあり、その窓から階段まで、適切な採光が確保される。

ガレージドアはRC造コンクリート打ち放しの外観とのマッチングを考えた末、木の質感を求めてワールドガレージドア製の木製オーバーヘッドドアを採用している。



The Garage

PICKUP THE GARAGE

日々の暮らしに寄り添う第2ガレージは
トップライトからの採光でいつも明るく。

TheGarage

PICKUP THE GARAGE

バリアフリーも意識した平屋は夫婦2人のためだけの“終の住み処”。

玄関は床が磁器質タイル、奥の壁は珪藻土、側面の壁はタイルと、白を基調としながらも素材ごとの表情が彩りを添える。足元から第2ガレージの様子がうかがえる。

LDKの一角からも第2ガレージをガラス越しに見下ろすことができ、ご夫婦どちらかが帰ってきた折にも、すぐにその様子が分かるようになっている。

草野邸の居住空間は、すべて1階に集約されている。玄関から上がると、LDKから奥の寝室まで段差が一切なく、バリアフリーとなっている。

「車椅子のまま上がって来られるような状態は作ってほしかった。ただしガレージは階段なのでちょっと矛盾してますけれど(笑)。10年経って、足腰がしっかりしてれば階段から、弱っていればスロープからも上がれるなと」とご主人。

若い施主が家を建てる時は子育てを念頭に置いた間取りになるが、子どもが独立した後に建てる家では、リタイア後の長い人生を見すえた設計になる。そして、「体が弱った時のための家」ではなく、「体が弱っても楽しく暮らせる家」が草野邸だ。

非日常的でダイナミックな空間を希望するご主人と、ある程度の日常性は確保した素敵な家にしたい奥さまの要望を反映し、広いLDKは白を基調としながらメリハリの効いた空間構成になっている。リビングの南側の窓からは庭の芝生を眺められ、また、約130インチの大型スクリーンを降ろしてホームシアターともなる。リビングの1面を占める大きな鏡(?)は“グラスルーチェ”という、DVD、TV、PCモニターなどを兼ねた新世代のマルチモニターシステムだ。リビングの真下に位置する第1ガレージも、カメラでここから様子を見ることができるのだとか。モニター用のカメラも、本体はそれほど高価でもないので、家を設計する段階で配線を組みこんでおけばコストがそれほどかからないとのことだ。

まだ少しだけ会社の事業を手伝っているものの、午前中だけ仕事をして午後からは帰宅したりといったライフスタイルになり、1日の半分はこの家で過ごしているという草野さん。快適なガレージハウスで第2の人生を楽しんでおられるようである。

リビングから奥の戸を抜けると、和室、ご夫婦それぞれが趣味や仕事に使う洋間、そして一番奥に主寝室と配置されており、段差ゼロのバリアフリー設計となっている。

P PLANNING DATA

所在地●愛知県名古屋市
施主●草野和義さん
竣工●2012年1月
構造●RC造(地下1階地上1階建)
敷地面積●823.67㎡
建築面積●285.35㎡
延床面積●310.69㎡
ガレージ面積●ガレージ1：42.90㎡
ガレージ2：46.03㎡
愛車●1961年式ポルシェ356Bロードスター
2012年式ポルシェ991カレラSカブリオレ
2011年式BMW 523
2012年式ベンツC190
1996年式ローバーミニクーパー

O OWNER'S CHECK

■一番気にいっているところは?
ガレージのニッチにミニカーコレクションを置けるのと、古いポルシェ専用に製作してもらった排気ダクト。

■ちょっと失敗したところは?
地下ガレージの照明が予想より暗かった。また、ガレージ内にエアコンを入れておくべきでした。後からだと大変ですので、予算に余裕があれば思い切って最初に導入すべきです。

■次の夢はなんですか?
今のクルマに飽きずに末永く可愛がっていくこと。

■読者へのアドバイスを!
まずクルマより先にガレージですね!! それと、排気ダクト用の穴と配線も、あらかじめやっておきましょう。

浴室から眺められる小さな庭は、円弧を組み合わせたこの家の形状から生まれた隙間を活用したものだ。夜にはライトアップされた竹を眺めながらリラックスできる。

大きな空間の天井に、大胆なアールが描かれるLDK。「大黒柱」は構造上は不要ながら、奥さまの要望で設置。左に見える鏡は“グラスルーチェ”というモニターシステムだ。

C COMMENT FROM A BUILDER

東海・ビルドー級建築士事務所
森　昭夫さん
増田陽介さん

すべては1枚のスケッチとスタディー模型から始まりました。草野邸には、水平・垂直のX・Y軸といった軸は数本しかなく、ほとんどがR軸や放射状の軸で構成されています。このプロジェクトの一番の思い出は施主様との数え切れないほどの打合せです。数々の変更を重ねながらも、最初から最後まで「後悔しない住宅を創る」をモットーに打合せを行い、お互いに熱中するあまり、ほとんど深夜に及びました。1つの仕上げにも数多くの思い出と思いがあり、施主様と共に本気になって創り上げた達成感を味わえ、最高でした。

愛知県名古屋市名東区猪子石原1-1307
Phone/0120-152-421
http://www.tokai-build.com/

南側に大きな庭をもつ草野邸。1階建てとしているため、開放感がなんとも心地よい。左側にはバーベキューなどに活躍する石のステージが設けられている。